

# Q & A

問題解決!



南部営農センター  
園芸課  
検校 哲也

**Q1** 「コンパニオンプランツ」とは、何ですか？

**A1** 『仲良し植物』という意味です。いつしよに栽培すると病害虫を抑えたり、生長を促したりします。

たとえば、ダイコンとニンジンをつつしよに植えます。ダイコンなどアブラナ科の植物にはモンシロチョウ、ニンジンなどセリ科の植物にはアゲハチョウが寄ってきます。これらのチョウは、逆の野菜では卵を産みつけられないことが分かっています。蝶はどうやら、卵を産みつけるのに好ましくない野菜があると避けて飛ぶようです。ダイコンとニンジンをいつしよに植えると、モンシロチョウもアゲハチョウも寄ってこなくなるのです。

同じように、キャベツ(アブラナ科)とレタス(キク科)を並べて育てる(写真1)と、モンシロチョウやコナガが近寄りなくなります。レタス固有の香りをモンシロチョウやコナガは嫌います。また、これらの虫は赤色を嫌います。赤い

葉のサニーレタスが効果的です。枝豆とトウモロコシの組み合わせも同じ仕組みで害虫を遠ざけます。



写真1  
レタスとキャベツを並べる

マリーゴールドが咲く畑を見たことはありませんか。(写真2) マリーゴールドの根から出る分泌液には、植物の根に寄生する害虫「センチュウ」を寄せ付けない効果があるほか、コナジラミやアブラムシなど地上の害虫予防にも役立ちます。マリーゴールドは植物のお医者さんと呼ばれるほどのコンパニオンプランツです。根菜類やマメ科の植物のほか、トマトやきゅうり、ブロッコリーなどと相性が良い草花です。



写真2  
ピーマンの横にマリーゴールドを植える

カモミールやバジルなどのハーブも害虫を寄せ付けないので近くに植えるといでしょう。長ネギ、ニラ、ニンニクなどネギ類も同様で、強い香りで害虫を遠ざけるほか、土の中の病原菌を抑える働きがあります。

相性の良い植物をいつしよに育てて、共存共栄の畑を作りましょう。

**Q2** なるべく農薬を使わずに野菜を育てたいのですが、良い方法がありますか？

**A2** ●防虫ネット

支柱とネットを用意するだけで簡単に防除できます。物理的に虫が入って来ないようにするもので、プランターや畑

の苗を防虫ネットで覆えば、虫の入り込みを防ぐことができず。背丈が大きくならず虫に食べられやすいようなキャベツ、白菜といった葉物野菜に使用できます。網目1ミリでも十分防除できますが、小さい害虫もいますから0.4〜0.6ミリの網目がおすすめです。

●行灯(あんどん)

写真3のように4本支柱を立て、苗を囲むようにビニールを貼ったものを行灯と呼んでいます。主にキュウリ、カボチャ、ピーマン、ナスなどの果菜類に使うことが多いです。側面から害虫が入ってくるものを防ぐほか、風にさらされず、中の温度も高くなりやすいので、初期生長を促します。特に、ウリ科のカボチャやキュウリに来るウリハムシに有効です。



写真3  
風除け虫よけに肥料袋あんどんを

ずっとこれで囲んで育てるわけではなく、生育初期のみ害虫に負けないように使用します。肥料袋を切って使用することもありますが、市販のものもあります。

●粘着シート

黄色など虫が好む色で誘い出し、粘着シートで捕えるという方法もあります。作物よりも高い位置に設置して、空から飛んで来るアブラムシをしっかりと捉えます。

自然の中では、ある程度の病害虫は避けがたいものです。込み合った枝や葉を整理して風通しを良くする。マルチなどで泥跳ねを防ぐ。早めに病気や虫を見つけたら、傷んだ葉は、病気が広がらないように取り除き、虫も捕殺します。

葉の裏まで、よく観察して最小限の被害で食い止めましょう。

オンライン  
農業塾  
はじめました!  
動画はコチラ

管内の  
病害虫情報は  
こちら